

をば羽分大后とぞ申ける其御腹に王子二人おはし坐一人を太郎王子おほい所とぞ申ける一人を二郎王子すなひ所とぞ申ける云々と有て本島鎮座の神は此波布大后と此二柱の王子と知らるゝに總鎮守と云ひ大宮と云ひ大島明神と稱ふにて此神の太郎王子なること灼然く野増村南方二里海濱に阿治古と稱する所ありて舊此地に村居の有しを噴火の爲に埋れて今の地に移したる由口碑に傳たる據有説にて古く此神も彼地鎮座なること知られ阿治古の地名存れるを以て阿治古命なること疑なく聞ゆと式社考證に云る確證と云べしかくて此神は三島の神の后にます波布比咩命の生ませる第一御子神とみえたり

祭日

祭日

伊波比咩命神社

(明細帳姫宮神社祭神同所)

祭神

伊波比咩命

社格

村社

所在 (賀茂郡三坂村大字一色) 一色村

今按式社攷證に賀茂郡一色村姫宮明神なるべし圖圖にも此村に載せ豆志に一棟三扉の祠なり慶安四年の文には姫宮左權理右は御靈當社前代敗壞中絶百年と又末社の天

神は地主神也故に此所を天神社と云舊社にして式内也と云と記せる此邊の山谷都て岩なるは伊波比咩の御名にも適へる土地にて疑なく思はる末社天神は地主神也とある此社より東方五町許蝶嶺野村内に伊波志美豆と稱する巖山ありて頂上に辨天と稱する小祠立るが其さま此神の舊址なるべく聞えたり能索ぬべし又同郡白岩村屬里小川の土神に千安明神ありて豆志に寛文五年の文に姫御前大見庄小川鎮守と誌せり村老傳へて岩姫と云とみえ伴信友が説に是正しく伊波比咩命神社なるべしと云れたれど此邊もと田方郡にして賀茂郡なりし處とは隔れ、ば然らずと云るによりて足柄縣の註進にも件の一色村の社と定めたれば今は之に従へり

阿波神社

大神

祭神 阿波比咩命 稱長濱明神

今按この阿波比咩命は三島大神の本后にして神異を顯し島を造りて其造れる島に鎮坐し玉ふ事は續日本後紀に承和七年九月乙未伊豆國言賀茂郡有造作島大名上津島一此島坐阿波神是三島大神本后也又坐物忌奈乃命即前社御子神也新作宮四院石室一間屋二間閣室十三臺上津島本體草木繁茂東南北方巖峻嶮峻陸地并沙濱二千許町其島東北角有新造神院其

中有觀高五百許丈基周八百許丈其形如伏鉢東方片岸有階四重青黃赤白色沙次第敷之其上有一閣室高四許丈次南海邊有一石室各長十許丈廣四許丈高三許丈其裏五色稜石屏風如立之巖依波山川飛雲其形微妙難名其前懸來額狀障即有美麗濱以五色沙成修次南傍有二磯如立屏風其色三分之二悉金色矣肢曜之狀不可致記亦東南角有新造院周垣二重以堊築固各高二許丈廣一許丈南面有二門其中央有一壘一周六百許丈高五百許丈其南片岸有十二間室八臺南面四基西面四基周各廿許丈高十二許丈其上階東有一屋一基蓋瓦形堂造之長十許丈廣四許丈高六許丈其壁以白石立周則南面有一戶其西方有一屋以黑瓦葺作之其壁塗赤土東面有一戶院裏磔砂皆悉金色又西北角有新作院周垣未究作其中有一壘基周各八百許丈高六百許丈其體如盆狀南片岸有階一重以白砂敷之其頂平麗也從北角一至千未申角長十二許里廣五許里皆悉成沙濱從戌亥角一至子丑寅角長八許里廣五許里同成沙濱此二院元是大海又山峯有一院一門其頂有二人坐形石高十許丈右手把劍左手持粹其後有二侍者跪瞻貴主其邊綾織不可通達自餘雜物燦燦未止不能具注去承和五年七

伊豆國 賀茂郡

月五日夜出火津島左右海中燒炎如野火十二童子相接取炬下海附火諸童子履潮知地入地如水震上大石以火燒摧炎傷達天其狀臙臙所々發聲其間經旬雨灰滿部仍召集諸祝刀稱等下求其崇云阿波神者三島大神本后五子相生而後授冠位我本后未預其也因茲我殊示惟異將冠位若爾宜祝等不申此崇者出鹿火將冠位者天下國郡平安者將亡國郡司若成我所欲者天下國郡平安令產業豐登今年七月十二日望彼雲島烟覆四面都不見狀漸比戻近雲霧霽明神作院岳等之類露見其良乃神明之所感也とみえ三宅記に此神のことを神津島に置給ふ后をば長濱の御前とぞ申けるとあり古き上梁文に長濱大明神與奉申御神者當島鎮守神集島定大明神御母神也とあるにて著明し神位 仁明天皇承和七年十月丙辰奉授伊豆國無位阿波神從五位下伊豆國造島靈驗也文德天皇嘉祥三年十月壬子伊豆國阿波神從五位上十一月甲戌朔詔以安房神一列於官社仁壽二年十二月丙子加伊豆國阿波比咩神正五位下今按齊衡元年六月己卯阿波比咩神授正五位何れか符文なるべし故今本文を存して彼を翻る

祭日 四月六月十一月並中西日

社格

縣社(府社)

所在 (伊豆國神津島宇水嶺山) 神津島